

平成 28 (2016) 年 7 月 22 日  
在ベネズエラ日本国大使館  
附属カラカス日本人学校発行

目指す児童生徒像 よく考える子 思いやりのある子 進んでやりぬく子 強くたくましい子 日本もベネズエラもよく知る子

**ただ子どもたちのために！ ただ学校のために！ ただそのために汗を流す！**  
**1学期が本日で終わります。多くの方々のお陰でいっぱい楽しい思い出ができました！**



心で聴いた第1回音楽鑑賞会

7月21日(木)5校時に、第1回音楽鑑賞会を開催しました。昨年に続いてベネズエラ音楽を聴く音楽鑑賞会でしたが、今回はマンドリンとクアトロの調べでした。その美しく、哀愁を帯びた音色は、聴衆の心にしみ入りました。誰もがマンドリンとクアトロの音色の虜(とりこ)になってしまいました。



♥♥♥こんな日がありました!♥♥♥

(写真左から)①白ウサギと黒ウサギはとっても仲良しです♥ ②七夕の笹飾りを燃やして、願いを天に届ける♥ ③ピースボートとの思い出が、素敵な写真とパネルになりました♥

### カラカス日本人学校をもっともっと知り、もっともっと好きになるために…(その114)

**カラカス日本人学校はみんなの大切な、大切な宝物です! NO. 9**

創立40周年の昨年、学校沿革史を学校に残されている資料(学校日誌、10周年記念誌、20周年記念誌、



学校要覧、全校文集「カリベ」、指導要録、写真など)を駆使して、作成しました。それは、創立40周年記念誌DVDに収めてあります。この作業には相当の時間と調査が必要でした。40年間の歴史を現在の者が調べるのですから、限界も多々ありました。限界のひとつに、保護者世代ならばよくご存じのザ・ドリフターズのリーダーであった「いかりや長介氏」のことがあります。だいぶ以前にこのコラムで日本人学校を訪問した有名人のひとりとして紹介していますが、その詳細はほとんど不明でした。1998年に当地で発行された「ヴェネズエラ日系人70年の歩み1928-1998」という本の中で、初代教頭の橋本貞夫先生が初代校舎であるバージェ・プレスコ時代の思い出として、「…コメディアンがいかりや長介が学校を訪問したとき、一番関心を持ったのが理科室の標本でした。へびやサソリについて、たくさんの質問が飛び出しました。この時期に出版社の小学館の記者が取材に訪れ、「小学五年生」に本校が紹介されました。…」と書かれています。この記述のみが、当時大人気であったいかりや長介氏と本校を結ぶ唯一のものでした。

しかし、ひょんなことからこの記述が事実であることが分かりました。ある方のホームページにその記事を見つけました。そこにはこう書かれてありました。「…長さんが、ヤモママ族の村からベネズエラの首都・カラカスに移動し、日本人学校を訪ねました。この頃、既に「多国籍企業」という言葉は巷で聞きましたが、まだ保護者が海外に赴任して日本人学校で学ぶのは珍しい時代だったと思います。私の中学校1年生の時の技術の先生が、どこかの日本人学校に異動してびっくりした記憶があります。『小学五年生』1977年6月号。」この記事から、いかりや長介氏がカラカス日本人学校を訪問したのは、1977年頃と推測されます。ヤモママ族と書かれてありますが、ヤノママ族の誤りのようです。ヤノママ族は南米先住民族の一部族で、ブラジル

とベネズエラの国境付近のアマゾンやオリノコ川流域に住んでいます。また、いかりや長介氏が本校を訪問したのは、ザ・ドリフターズが当時の国民的番組「八時だよ!全員集合」で爆発的な人気を誇っていた頃でした。これであの一世を風靡したザ・ドリフターズの長さんがカラカス日本人学校を訪ねていたことが証明されました。学校沿革史に新しい記述が増えることとなります。(写真:小学館「小学五年生」1977年6月号の記事)